

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 4070702685, 株式会社プロデュース).

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 2 columns: 基本情報リンク先 and URL (https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php?action=kouhvuou_pref_search_list_list=true).

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 評価機関名, 所在地) and Value (e.g., 公益社団法人福岡県介護福祉士会, 福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

0歳から100歳までが共に生きる会社・地域を創る
ダイバーシティ&インクルージョン経営(地域雇用を生み、地域のみんと生きる)
OJT【理念と経営 共に学ぶ会】
自社(事業所)が大切にしている価値観などを全社で学ぶこと
利用者様やご家族の悩みに耳を傾け、社会に役立つ事業所になるためのあり方を学ぶ時間
時期管理者育成(Hさん、Sさん)
チームケアの重要性(チームビルディングとコミュニケーション)
面談の機会を多く作ること

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して今年で18年を迎え、近くには商店街や市営の高層団地などがある。鉄筋造り3階建ての2・3階部分に事業所があり、所内はアットホームな雰囲気である。地域の高齢者の雇用やハンディキャップを持った職員など一人ひとりの状況に応じて勤務できる体制である。また、年齢や体力的にも利用者のケアが無理な場合には仕事の内容を変更し職員が無理なく続けられるような配慮がある。職員は明るく笑顔で利用者の気持ちに寄り添いながら接している。高齢者の職員も複数おりパート職員を含め全職員がオンライン(ZOOM)の操作が可能であり、自社独自のアプリを使って情報の共有を図っている。以前は配食サービスを利用していたが現在は全て手作りで美味しいと利用者も喜んでいる。地域に根差した事業所として益々の活躍が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Results (self-check), and Achievement Results (evaluation). Rows 58-64 are visible.

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の浸透は、13の徳目朝礼・理念と経営 共に学ぶ会を全社で開催。 OJTも活発に行い理念を共有して実践に繋げている	冊子「理念と経営」を基に、オンラインで毎月系列の全事業所が参加し学ぶ機会がある。冊子「13の徳目」(挨拶～感謝迄の13項目)を使用し朝礼を行い、職員は毎日1項目を目標に掲げケアを実践している。その為、職員一人ひとりが理念について自身で考えたり、振り返ることもでき、理念の浸透に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	この2年間はほとんど交流がもてていない	町内会に加入している。地域の民生委員を兼ねた職員がおり、町内の会議に出席したり、地域での個人的な相談にも応じている。その為、職員を通じて地域住民の雇用に繋がった経緯がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	この2年間はほとんど地域に向けての活動ができていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ後は運営推進会議も行っていない	書面やオンラインでの開催も含め、運営推進会議は開催されていない。4月から今まで通りに開催していく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困ったことや、確認したいことがあれば、すぐに市に相談させてもらっている 関係性は築けていると思う	事業所のある建物が老朽化の為、移転に関することやコロナ感染症について、また、生活保護受給者の件など実情を報告し、不明な点や困っていることなど相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内で「身体拘束廃止委員会」が活性しており毎月勉強会や会議を開催している 全社員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について理解している。社内で行われる勉強会に身体拘束廃止委員が参加し、パート職員を含む全職員がZOOMの操作ができるので月に1度伝達研修を行い、会社独自のアプリも活用し学ぶことが出来ている。近隣住民による利用者への声掛け、見守り、連絡などの関係性は保たれている。職員は利用者の外出傾向を把握している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「しない・させない・見過ごさない」をスローガンにお互いで指摘しあったり相談できる関係性を築いている 適宜防止対策も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、活用している方がいないことも含め現場のスタッフさんに関しては関係者との関わりなどない 学んでいるのがリーダークラスまでで止まっている	職員は権利擁護に関する制度について十分に理解するまでに至っていない。今後年間計画の中に権利擁護について学ぶ機会を確保したり、パンフレットなども準備する予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の前に十分に説明をし納得していただくように配慮している 質問を十分に引き出すことを意識している 極力代表者も契約に立ち会う		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価以外にもCIA診断などを行い、運営に反映させるように仕組みを作っている 課題はなかなかクレーム的な意見が出てこないこと	遠方に住んでいる家族より入居している利用者の日常の様子が知りたいとの要望を受け、意向に沿えるよう取り組むようにしている。コロナ禍の中、状況や感染対策に配慮しながら可能な場合には1階の会議室で家族との面談が出来たり、また、家族からの差し入れを利用者に渡すなどしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの面談の要望は多い方で、その都度即座に面談対応を行っている 年に1度は全員面談を行う 毎月の会議でも発信できる場を作り、職員で共有している	職員は、立位が出来ない利用者のケアや人手不足によりチームケアがスムーズに行かないなど相談している。代表やケアマネジャーは職員からの意見や相談について迅速に対応し、二人体制でのケアや人員を補充するなど改善されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	この2年間で新たに取り入れたのが【健康経営】就業規則の見直しから行い、毎年1項目は職員さんにとってメリットと感じられる環境を増やすことにしている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	ここは弊社の強みの分野 ダイバーシティ&インクルージョン経営には欠かせない ハンディキャップがある職員さんがいきいき働ける場になっている	採用時に性別・年齢等の制限はなく、希望休暇など取りやすい。代表は職員一人ひとりの状況に応じた勤務が可能となるよう配慮している。調理やレクリエーション、体操など職員個々の能力が発揮出来、資格取得についても助成がある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	自社独自のOJTを開催 入居者及びともに働く職員同士の人権を守る教育を行っている	言葉かけなどにより職員間のコミュニケーションが図れない場合に代表が間に入って調整した経緯がある。その際、代表は職員と共に行動し人権教育を実践している。また、日々の関わりの中でも相応しくない場面を見受けた場合には職員間でも注意し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	14番の人権教育・啓発活動に力を入れてきた2年間でした。今年は介護力を上げるための研修カリキュラムを組んでいる コロナで個別の自己啓発消極的に感じる		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO日本KAIGOサポートセンター、副理事長を務め、全国の介護事業者との繋がりをオンラインでも行っており、質の向上のための研修などを行っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を活用して要望等を確認している ご家族からのヒアリング・入居者様のお話を傾聴している		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	リーダーにはコーチングを学ばせ、「傾聴：することの重要性と「質問」の質をあげていくトレーニングを行っている また、ご家族の話に「共感」「受容」しながら関係創りを強化する(kschool)		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員によつての「差」があるが、介護が初めての職員にもこの大切さを伝えている 知っているとできることの「差」が課題である		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	想いの強い職員が多いので、一生懸命に取り組んでいるが、入居者が望むことと、職員がやってあげたいことが必ずしも一致しているとはいけないことも多い場面が見られる		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	特にコロナでご家族の面会を中止していた期間が長いと本人様と家族の絆をなかなか繋ぐことが困難になっている現状があります。ZOOMなどの対策はありますが、なかなかご家族との活用までできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	この項目についても今現在はなかなかできていない。床屋や美容室の行き来は継続している。	友人・知人の訪問時、可能な場合には感染対策をしながら利用者は会えたりしている。また、お墓参りや自宅を見に行くなど管理者が同行し馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士では、会話を良くされる方同士を繋いだり、ソファに座っていただきながらの空間づくりなど孤立しない工夫は行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの例としたら、父親から夫の利用につながった事例や、母から知人の入居相談など、退去後も関係をもてるようなコミュニケーションをとっている。SNSの活用なども大きい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コロナ禍で、利用者様のカンファレンスをすべて社内SNSなどを活用して視える化していくことで全員で共有することができている。	会議やカンファレンスの時間を最小限にし、職員は日々の利用者の様子や思いなどが把握できるように、触れ合う時間を多くしている。連絡事項は携帯のラインや、職員共有のメール欄を利用し、職員全員が把握している。入居時に家族を交えて思いや意向を聞き取ったことは、記録に残し閲覧できるようにしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本的に入居の際に「センター方式」を記入していただき、把握をしますが、記入することが難しいご家族がいるのも事実。そのような場合は入居後、コミュニケーションをとりながら情報を探していくようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフからの情報をケアマネがしっかり把握しながら情報の共有に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	しっかりと堀田ケアマネが情報収集をして介護計画を行っている。日頃のスタッフの声を漏らさずにきいているケアマネはありがたい。	利用者担当職員がモニタリングをしている。関わる全職員は、カンファレンスシートの質問事項に対し記入し、医療関係者には受診の際意見を求めている。ケアマネジャーが介護計画書の原案を作成し、訪問できない家族には原案と家族の意見や希望を記入する用紙を郵送している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ここは課題に感じている部分である。定型の報告のみにとどまってしまっているため、工夫が必要。来年度からITを導入するので、効率的な仕事をして情報を多く共有できるようにしたい。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	まだまだ過去の流れにそって業務が流れている感じもあり。多機能化にチャレンジできるところがたくさんある。コロナ禍で制限されるものの、チャレンジしていきたい。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民センターの行事や、文化祭・祭りなどにこの2年間は全く参加できていない。はやく暮らしを楽しめる社会に戻りたい。施設内での行事はできるが外部の資源との接点がなくなっている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ながいクリニックと翡翠訪問看護ステーション・九州メディカル(薬剤師)との医療連携が非常によく、うまくいっておりスムーズに専門家の意見が反映できるので、助かっている。	かかりつけ医については、利用者や家族の意向を重視している。事業所には月に1回往診をしている協力医や、希望による訪問歯科診療もある。契約による訪問看護事業所は週に2回の訪問のほか、24時間対応可能である。緊急性のない場合は、家族や職員が症状を医師に伝え処方薬を貰ってきている。整形外科や、眼科、皮膚科は外来受診をしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	こまめに出来ているし、活用(連携)している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現在、医療の責任者は全社で堀田ケアマネが担当しており、細かい把握までできている。医療機関や訪問看護ステーション、薬剤師からも感謝の言葉をいただくことが多い。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期の対応も出来ている。他で受け入れていただけない利用者様にも入居をしていただき、最初は大変な場面もありますが、今は穏やかに生活ができています。チームで創り上げた成果になっています	入居の際に終末期の対応の話はしている。医師の意見をもとに時期を見ながら、家族の意向を踏まえて、安心して納得できる最期を迎えられるよう、医療関係者と職員が連携している。家族の中には、利用者の部屋で寝泊まりし、最期を看取られた方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ間の「差」がある状況が現実ではあるが、対応ができる職員から現場で学ぶ機会を作っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCP委員会が活性しており災害に対しても全社一丸となって築けている。	全社からの災害委員会による、災害時の行動の流れによるマニュアルを作成している。年2回防災事業者の協力のもとで、避難訓練の実施をしている。備蓄品は賞味期限10年の水や食料を確保している。地区の水害対策のマニュアルを職員全員で話し合い、一枚の表にして各階に貼っており、火災のマニュアルも今後作成予定である。	有事の際、スムーズな避難誘導ができるためにも現状に沿った訓練計画や実施、記録による振り返りの機会を持つこと、関連する記録のファイルはいつでも見られるようにしておくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	課題である。つつい慣れあいになってしまいがち。	職員は排泄や入浴の声掛けや支援の時には、失礼にならない様に心掛けている。好みの服を着たい、食事中は音楽を聴きながらなどの、希望に添える様に努めている。記録などは見守りをしながら記入しており、離席の際にほかの人の目に触れないようにする配慮のあり方について検討していくところである。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の力量の差が目立つ。統一したケアで標準化をめざしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これも職員によつての差が目立つ。今年はこの教育に力を入れる方針をたてる。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	どちらかという「こだわり」がある方が多い。この洋服しか着ないというその人にとってのおしゃれやこだわりを大切にしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	2年前は人手不足から配食サービスを利用していたが、この項目は改善できた。全ての食事を手作りにできて利用者様が喜ばれている。	美味しく食事が出来る様に、職員は口腔ケアの指導を受け、歯磨きの支援をしている。地域から通っている調理の上手な職員がおり、手作りの食事を提供している。献立は皆で考え、利用者の好みも聞いて反映している。調理は各階で振り分け、行事食は全員で作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	細かく対応できている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、出来ている。必要な方は定期的に歯科にも入っていただきチェックしてもらっている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	力をいれています。紙パンツで入居してこられたかたも、しっかり声掛けして布パンツにパットで可能なかたも増えている。	利用者個別の排せつ記録があり、さりげなくトイレ誘導の声掛けをしている。自立の方には最小限の支援を心掛けている。日々の支援から失禁が減少し、履くオムツから布パンツになったり、尿取りパットの使用も少なくなっている。トイレには尿取りパットや、履くオムツは置かず、自室から持ってくるようにしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる！毎朝のヨーグルトは15年以上続くメニュー。水分量やマッサージ。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	人手不足の日は午前中に入っていたり、現場の都合で時間がかわることがある。	入浴表を作成しており、毎日2名ほどの利用者が入浴している。浴槽に入るのが困難な場合は、シャワー浴対応をしている。大きな行事の日以外は入浴できる体制で、希望があれば朝早くや夕方入浴も可能である。シャンプーやボディソープは事業所提供のものを使用している。看取りの利用者は、訪問看護が清拭をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る時間はみなさん比較的早いですが、眠れないときなどはゆっくり職員と団らんし時間をとり、しっかりお話をうかがうなど、夜勤者は気をつけている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	これも堀田ケアマネがこまめにチェックし、視える化しているため、共有できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケ・パズル・塗り絵・TV・体操などそれぞれ好きな分野が違うため、なるべく多様なレクリエーションを取り入れるようにしている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今はできていない。	近隣の散歩や公園にも行ったり、ドライブや花見にも出掛けたりしていたが、気候やコロナ禍での外出禁止の時期が重なり、理・美容院以外の場所に出かけなくなっている。桜の開花も間近なので、状況を見て外出の機会を支援するようにしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持できる方が少ないのが現実である。要望もほぼない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が手紙を書ける方は少ないが、ご家族から年賀状が届いたり、お友達から電話をいただける方はいる。施設側はきらめき便りの発行を月に1枚送っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔の学校？長屋のような雰囲気的环境下はあるが、みなさん、温かさを感じられている様子ではある。居場所がしっかりとあり、自分のスペースを持たれている。	建物は老朽化してきたが、いつも変わりなく過ごせるリビングに馴染みの人達がつどい、安心して過ごせている。廊下も直線で広く、壁には職員の標語や作品が飾っている。ゆったりと静かで、温かい空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い施設なので、その中で居場所が固定されている。自分の居場所になっていると思う。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	殺風景な居室があるのも事実。しかし、ほとんどみなさん、リビングで過ごされており、居室で自分の時間を楽しむかたは自分なりの空間を作られている。	居室は広くベットやカーテン、寝具は備え付けてあり、窓も広く光が入りやすい作りである。家族が飾りつけをしたり、筆筒や仏壇を置いたりしてあり、今まで通りの生活感や馴染みのある空間となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	女性は家事(お盆ふきやいりこの頭とり)洗濯物はアウトソーシングをしているので、できることを奪っている。男性の力を活かしていないのが現実。		